

徳島県中山間地域におけるモーダルシフト可能性調査

真坂 美江子 (徳島大学) , 加藤 研二 (阿南工業高等専門学校)
近藤 光男 (徳島大学) , 奥嶋 政嗣 (徳島大学)

概要

再生エネルギーの宝庫である中山間地域は、低炭素地域づくりに対する期待が大きい。しかしながら、公共交通が未発達であり、交通部門の低炭素化が難しい。このような地域において、交通部門の低炭素化のために“何ができるのか”を対象地従業者に協力いただき実証実験した。

対象地域概要

対象地域: 徳島県上勝町

総人口: 1,911人

H23年実験時点

最寄り駅: 徳島駅(車で1時間半)

バス: 2hに1本の循環バス

そのほか: 有償ボランティアタクシーを運営



環境への取り組み



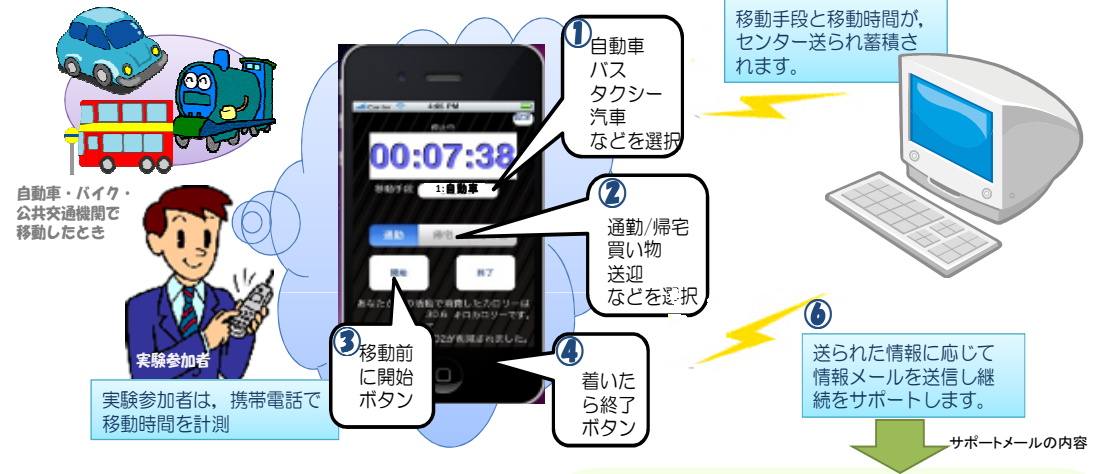
「ゼロ・ウェイスト運動」って？
「無駄」「浪費」「ごみ」がゼロになるために
できるさまざまな活動を行っています



実験方法

実験内容:
参加者のできる範囲で、低炭素交通を実施

交通行動の記録方法



～実験期間～

対象者: 上勝町役場従事者

参加者: 16名/44名中

実験期間:

2012年2月6
～24日まで
(19日間)



実験結果

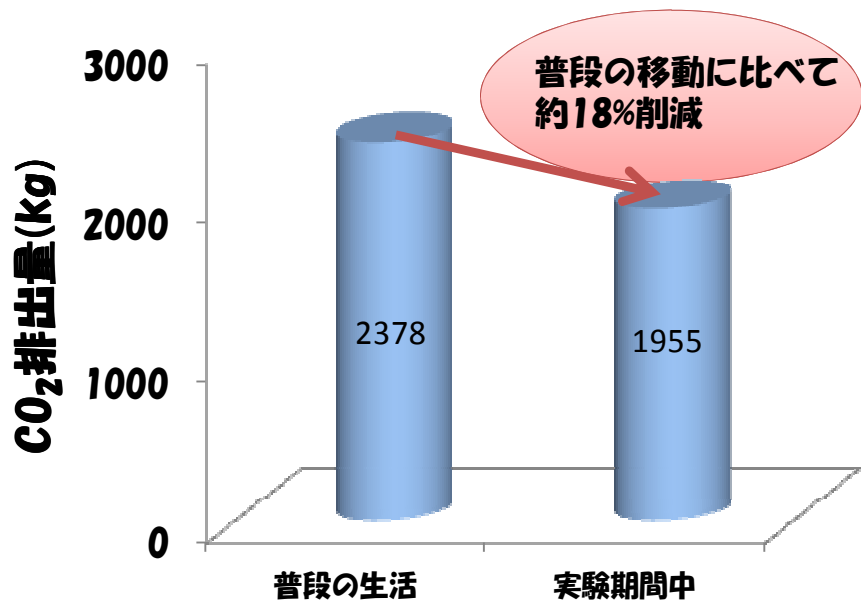


図1 CO₂削減量 N=16

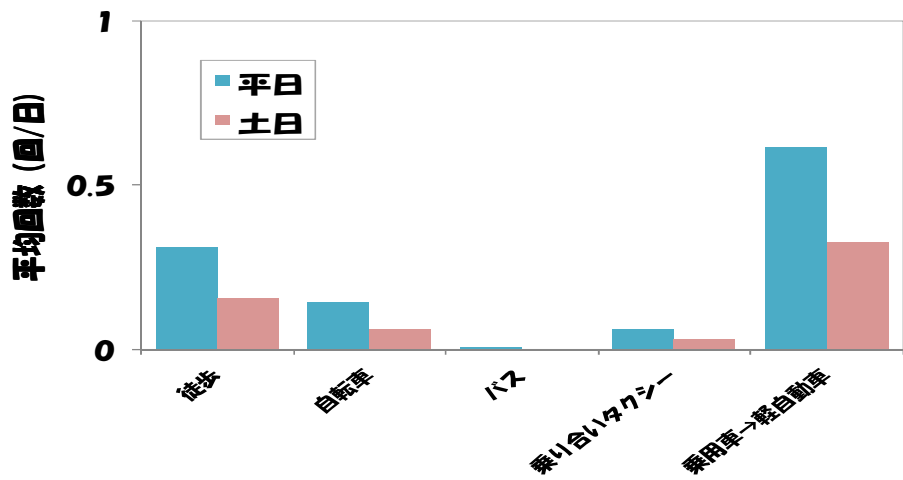


図3 平日/休日の移動手段比較

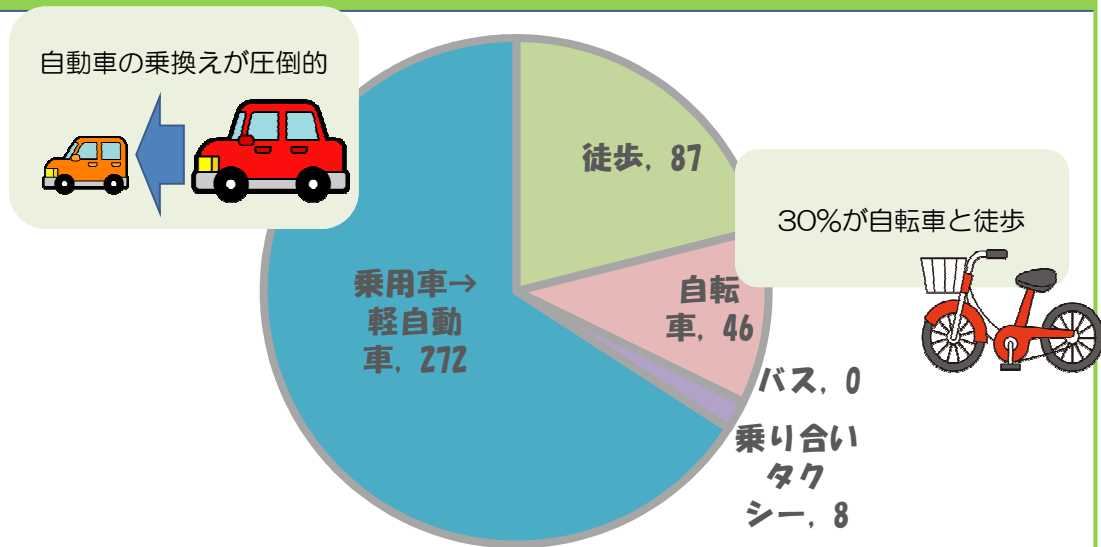


図2 移動手段別CO₂削減比率

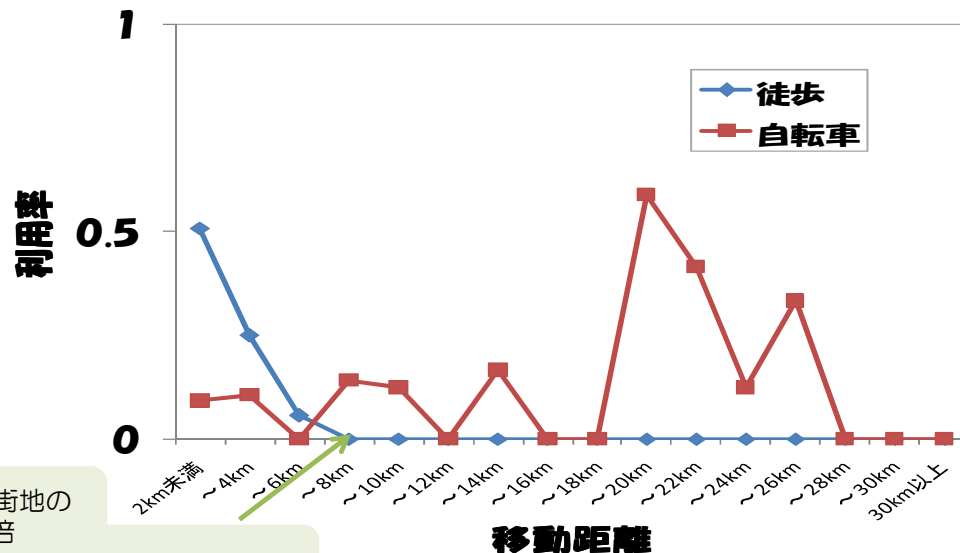


図4 自転車/徒歩利用率

まとめ

本研究は、公共交通の非常に未発達な中山間地域で低炭素交通のために何ができるのかを実験した。その結果、乗用車から付加の軽い軽自動車への乗換えが最も移行しやすいことが分かった。これは、中山間地域では、普段利用している車のほかにセカンドカーを保有している家庭が多いためと考えられる。今後、セカンドカーを電気自動車へと移行させる方法を検討していきたい。また、乗用車から軽自動車への移行に比べれば少ないが、自転車や徒歩への移行によるCO₂削減も30%程度得られており、自転車や徒歩への移行も検討の余地があることが明らかとなった。